

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500329
法人名	有限会社 萩の台
事業所名	グループホーム・カミングケアステーション
所在地	愛媛県新居浜市政枝町2丁目3番32号
自己評価作成日	平成25年10月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

居室に閉じこもってしまわないように、フロアを広く取っており、日中はレクリエーションや食事作りなどを通して、他の入居者の方々と会話が弾むようになっています。これまでにご利用されていた日常生活用品等を持ってこられて、出来るだけ在宅での生活環境に近い状態をたもてるように配慮しています。南側に農園と花壇があり、スタッフと共に野菜作りやお花作りに取り組んでいます。お日様のもとで土を耕し、収穫物を調理に使い出来る範囲で調理にも参加できるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

昨年度末に、初めての家族会を開催された。利用者18名のうち、17名のご家族の方が参加された。よく訪問して下さるご家族の方に司会をお願いしたところ、快く引き受けてくださったようだ。家族会の際には居間に、お節句時等の行事食の写真を掲示して見ていただいた。ご家族より「行事予定を把握したい」との声があり、ユニット毎に行事予定表を作成し、月初めに送る郵便物に同封されており、予定表に合わせて訪問して下さるご家族もあるようだ。又、「職員の名前がわかるようにしてほしい」という声があり、職員個々が首にかけられる名札を作られたが、使用していないことが多いため、今後は行事時等に使用したいと話しておられた。事業所では、職員の担当や係等をあえて決めず、みんなで意見を出し合い取り組まれており、出された意見はできるだけ試してみるようにされている。レクリエーションは、職員手作りの物を採り入れ「みんなが優勝できる」ように考えておられる。利用者個々に、「同じ介護、同じ対応」ができるように、職員間で「具体的な言葉で伝える」ことに努力されている。入浴や昼食の調理時間帯には、短時間パートの職員を配置して手厚く対応されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名	グループホーム・カミングケアステーション
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏名	高橋 奈緒
評価完了日	25 年 10 月 7 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 事業所内の意識付けのため掲示し、研修時などに定期的 に振り返りを行うように取り組んでいる。	
			(外部評価) 開設時より「家庭により近い環境の中で、自分らしさを大切に たくさん笑顔と自信を持って生活できる場を提供します」と 理念を掲げておられる。施設長は、職員の採用面接時に理 念について説明し、理解してもらってから採用するようにされ ている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域の行事(運動会や春・夏祭り・文化祭等)には出来る 限り参加をしている。また、自菜園でできたジャガイモや大根 等、御近所におすそ分けをさせていただいたり、御近所から お菓子等の差し入れを頂いたり、三味線等のボランティアの 方々やデイサービスとの交流会等を行っている。	
			(外部評価) 事業所の敷地で夏祭りを催された際には、公民館にちらしを 置かしていただいたり、地区の組長にもお手伝いしていただ きながら、案内チラシをポスティングされた。公民館でのバ ザーと盆踊りは、運営推進会議時に館長から案内をいただ き、9名の利用者が職員と一緒に参加された。利用者の座る 椅子を準備してくださったり、青年団の方が車椅子を押して くださったり、階段は利用者を背負って上がってくださった。 近所の方が、お菓子等を持って来てくださることもあり、事業 所からは、畑で採れたじゃがいも等を利用者と職員でおすそ わけに行く等して、おつきあいをされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 見学希望者は随時受け入れを行い丁寧に対応し、地域の方 々にもどのような施設か開放し芋炊き会・夏祭り等で見学 をし、理解してもらえるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			奇数月の第3木曜日に開催している。活動報告や避難訓練や緊急時の対応についても情報交換などを行っている。また、家族の意向や意見なども発表している。意見を頂いたことは管理者会で検討し、スタッフへ申し送っている。	
			(外部評価)	
			会議には、公民館長や自治会長、民生委員等にも参加していただいている。会議では、「入居者の状況」を報告し、質疑応答の時間を設けておられる。今後は、会議を活かして、昼食を一緒に食べる機会も作り、感想や意見をうかがいたいと話しておられた。	事業所のさらなるケアサービスの質の向上を目指して、今後は、地域のいろいろな立場の方や利用者、ご家族等にも会議に参加いただけるよう、働きかけてはどうだろうか。多くの方に事業所を知っていただき、さらなる理解や協力につなげていかれてほしい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			市の担当者とは、推進会議に参加して頂いたり、情報交換を行うように努めている。制度についての不明な点などその都度確認させていただいている。市の介護相談員受け入れ偶数月の第2水曜日に行っている。	
			(外部評価)	
			市の担当者は、運営推進会議に参加していただき、参加者からの質問ですぐには答えにくいような内容があれば持ち帰り、後日、返事をくださるようだ。参加者から「介護相談員の相談訪問の意図」について質問があり、市の担当者からは、後日、「施設内での虐待や入居者の状態確認」と返事をいただいたようだ。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			玄関の施錠は夜間のみ。身体拘束は行っていないが言葉や抗精神薬での拘束の危険性や防止を研修や勉強会などで行っている。	
			(外部評価)	
			利用者が、「もうすぐ迎えに来る」「外出しないといけない」等と話されるような時には、「何人が誘って散歩に行く」等して外に出かけるように支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止法について、職員研修を実施して、定期的に学ぶ機会を設けている。DV用養成講座や講演会にも参加させて頂き学ぶ機会を設けている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度を利用している利用者はいない。活用必要な利用者に備え、制度活用ができるよう学んでおきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項を十分に説明するように努めている。家族などの不安や疑問点にはその都度、説明を行い理解、納得していただくように配慮している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時などには意見や要望等を個別に確認するように努めている。家族会を開催し意見交換を行い、おやつをご入居者と共に食べて頂いた。 (外部評価) 昨年度末に、初めての家族会を開催された。利用者18名のうち、17名のご家族の方が参加された。よく訪問して下さるご家族の方に司会をお願いしたところ、快く引き受けて下さったようだ。家族会の際には居間に、お節句時等の行事食の写真を掲示して見ていただいた。ご家族より「行事予定を把握したい」との声があり、ユニット毎に行事予定表を作成し、月初めに送る郵便物に同封されており、予定表に合わせ訪問して下さるご家族もあるようだ。又、「職員の名前がわかるようにしてほしい」という声があり、職員個々が首にかける名札を作られたが、使用していないことが多いため、今後は行事時等に使用したいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会等を開催しその中で提案された意見を反映できるようにしている。	
			(外部評価) 事業所では、職員の担当や係等をあえて決めずに、みんなで意見を出し合い取り組まれており、出された意見はできるだけ試してみるようにされている。レクリエーションは、職員手作りの物を採り入れ「みんなが優勝できる」ように考えておられる。利用者個々に、「同じ介護、同じ対応」ができるように職員間で「具体的な言葉で伝える」ことに努力されている。入浴や昼食の調理時間帯には、短時間パートの職員を配置して手厚く対応されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は毎日事業所へ出勤し、一人ひとりとの関わりを大切にしている。働きやすい職場作りに努めている。	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。認知症の研修への参加をすすめている。研修で学んだことをスタッフ会などで職員に伝える機会を設けている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域密着型部会に参加し、他事業所との交流や勉強の機会をいただいている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) その方の居室にて、個別に相談する機会を多く持ち、本人の困っていること、不安なこと要望などの確認を行って信頼関係を築き、ご本人をよく理解できるよう努め、入居による環境変化からくるストレスを軽減できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の訪問時に家族などに困っていること、不安なことや要望などを聞き確認している。また、事前に見学に来ていただき、上記のような確認を行い共に支援を行っていけるように努めている。	
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人やご家族と話し合い、状態や状況を把握しながら、必要と思われる支援を見極め、ニーズに応じて他のサービス利用も検討している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で入居者ができることはなるべく自分で行っていただき残存能力維持ができるよう努め支援している。例えば調理の下ごしらえ、食器の片付け、シーツ交換、洗濯干しなど出来る方はスタッフと共に行う機会を多く設けている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には生活状況の事や現状の様子や健康状態などを面会時や電話などでお伝えするようにしている。また、個別のファイルに写真を保存し家族間で会話が弾むように配慮させていただいている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの場との関係が切れてしまっている状態の方が多 いが地域の行事や祭りへの参加など生活の中で行っていた ことを取り入れるように努めている。また、お抹茶をたてたり、 菜園作りなど自宅でされていたことを行える機会を設けている。	
			(外部評価) 今春、利用者が「自宅の庭に自分で植えた桜の木を見に帰 りたい」と希望があり、ご家族の承諾を得て、職員が同行して 戻られた。満開の桜の木の下で撮ったご本人の笑顔の写真 が居室に飾られてあった。秋には、西条市で生まれ育った方 が「だんじりが見たい」と希望されたことから、数名で西条祭り の「川入り」を見物に行かれた。事業所では、ご家族に親子 の時間を持ってほしいことを伝えておられ、定期的にご家族 と外食をされたり、自宅等に外泊される方がおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	利用者同士が生活の中で共に作業ができたり、共通の時間ももてるよう働きかけている。また、利用者間がトラブルにならないよう職員が間に入りながら対応している。
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	利用者が入院した場合は定期的にお見舞いを行っている。サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	職員は、利用者との日々のかかわりの中から、一人ひとりの希望等の把握に努めておられるが、利用者の暮らしの希望に沿った支援に向けて、今後さらにアセスメントの充実に取り組み、介護計画につなげていかれてほしい。
			(外部評価)	
		「家に帰りたい」と言われる方には、「なぜなのか」理由を探ることで、思いや意向の把握に努めておられる。生活歴や趣味等は、入居時にご本人やご家族等からお聞きして「課題分析票」に記録されている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	利用者や家族との日々の雑談や会話の中から今までの生活状況・環境を聞き取るように努めている。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	一人ひとりの現状を共有できるよう常に言葉かけを行いながら、一人ひとりの状態に合わせた対応が出来るよう心掛けている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>スタッフ会や日々の朝礼、カンファレンスで意見を出し合い介護計画に反映していけるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、利用者の日常生活動作等についてアセスメントを行い、ご本人とご家族の生活の上での希望等をお聞きして、職員間で話し合い、作成するようになっている。入居後は、3ヶ月で見直し、その後は6ヶ月毎にモニタリングして、計画の見直しにつなげておられる。</p>	<p>利用者一人ひとりのより良い暮らしを支援できるよう、事業所理念とも照らし合わせながら、介護計画作成に取り組みはどうか。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の様子を記録するだけに終わらず、一人ひとりの状態を把握し気づいたこと等を即、話合うことで情報を共有し、介護計画の見直しをしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>多機能にわたって支援していくためには、事業所内だけでなく、協力者や入居者家族との意見交換多くしながら取り組んでいきたいと思う。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりが活用可能な地域資源を把握し、本人主体に活用できるよう支援していきたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医から適切な医療が受けられるように情報提供を行い支援している。また、かかりつけ医からの情報交換から医療的観察事項・介護上の注意点など助言をいただいている。</p> <p>(外部評価) 利用者全員が協力医療機関に月2回往診してもらっている。利用者個々のかかりつけ医への定期受診は、基本的にご家族に付き添っていただいている。その際は、事業所での様子を文章にしてご家族に渡しておられる。ご家族から「同席してほしい」と依頼があれば、職員も同行される。毎月、協力医から提出される「現在の状態」や「服薬内容」等が記された利用者個々の「在宅療養計画書」は、毎月の郵送物に同封されている。歯科は、協力医へ通院したり、訪問診療をする歯科の利用もできる。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 介護職員は日々の状態把握や様子観察を行い、異常の早期発見・早期対処を心がけている。異常の際は看護職員と情報を共有し、家族や協力医に報告・相談のもと対応している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 利用者の入院時には、情報提供を行っている。退院時には、情報提供をしていただき受け入れに対応している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化されている入居者には、対応についても細かく話し合い、異変時には早急に受診体制をとるように努めている。終末期ケアについては事例がないが、今後重度化された方と同様に適切な対応ができるようスキルアップに努めたい。</p> <p>(外部評価) ご家族は、グループホームは「一時通過的な場所」と捉えておられ、「特養は最期まで見てくれる」と思っている方が多いようで、特養等の施設の申込みをされており、順番が回ってきたら退居する方もおられるようだ。ご家族からは「いつまで見てくれるか」との質問もあり、事業所はできる限り努力することを伝えておられる。終末期のあり方については、利用者の希望に沿った支援に向けて、ご家族等とも勉強する機会を作ってみてはどうだろうか。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当や初期対応の実践力についてはスタッフ会等において行っている。今以上の対応能力を身につけていくためにも、定期的に勉強会や講習会などに参加し、看護師を中心に実践力を身につけたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は毎月1回実施しているが、勤務状況により参加できていない職員がいたり、通常より多い体制での実施になっているため、日常により近い体制での訓練に切り替えている。地域の自主消防団との連携・協力体制を築き強化したい。 (外部評価) 10月に、消防署や自治会長や地区の組長、近所の方の協力を得て夜間の火災を想定した避難訓練を実施された。地域の方からは、夜は暗くて「逃げ道がわからないので、外壁に反射板を付けたらどうか」非常口に「スロープを付けたらどうか」等の提案をいただき、施設長は検討しておられた。地域の方から「自主消防団を作るので参加してほしい」と依頼があったり、市の担当者からは、事業所は耐震構造であり、「ここが避難先になる」と言われていること等から、今後、地域との連携や協力体制を深めていきたいと考えておられた。又、ご家族の緊急連絡網の作成を計画されていた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄時・入浴時などは個別で行いプライバシーを守り、損ねないような言葉かけを行うように意識しているが、今後も尊重していくよう心掛けていく。 (外部評価) 以前は、事業所で決めた日課表に基づいて、午後からは全員が昼寝する時間を設けておられたが、昼寝を好まない方もいるため、全員で行うことは止められた。居間からの声が聞こえるように「戸を開けとって」と言われる方や、「うるさいけん閉めとって」と言われる方がおられ、それぞれの希望に沿うようにされている。現在は、戸を開けておいてほしい方が多いようで、調査訪問時にも入り口の戸を開けて過ごされる方が多くみられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者自身の言葉や思いを伝えられるように信頼関係を築いていけるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	個々のペースに合わせて生活できるよう努めているが、 個々の心身の健康状態等を考慮しながら、職員側の都合に 合わせての生活を過ごさないように努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)	本人の希望で散髪の段取りを行ったり、髭剃りやお化粧品が できる機会を作ったりしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	出来ることを中心に、共に調理を行ったり、自菜園で作った 野菜や頂きものの野菜を活用している。メニューも入居者に 聞きながら決めたり、行事食を大切にしたりしている。	
			(外部評価)		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)	食事摂取量・水分量を確認し、毎食記録を行っている。栄 養のバランスを考えながら献立を考えている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	毎食後、言葉かけ・確認・記録を行い口腔ケアを行ってい る。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 車椅子使用の方も日中は出来る限りトイレで排泄が行えるよう支援している。排泄記録などを参考にトイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) トイレのドアノブに、札を掛けて「使用中」「空いている」かがわかるようにされている。入居時、紙おむつを使用して全介助状態であった方に、立つ練習を重ねられて、立位保持や移乗が可能となり、日中は紙パンツを使用してトイレで排泄ができるようになったケースがある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 1日に1回ヨーグルト、黒酢や野菜ジュースなどを摂取していただいたり水分摂取量にも注意している。腹部のマッサージや腹式呼吸等の体操なども取り入れている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿うように対応し、入浴剤や柑橘類の湯など楽しんでもらっている。体調に合わせてシャワー浴や清拭も行っている。	
			(外部評価) 週3回、午前中の中の入浴を基本として、ユニット毎に曜日を決めて支援されている。浴室は、浴槽をまたぐことが難しい方のためにリフトの設備があるが、現在使用する方はおられない。みかんの皮を干した入浴剤がお気に入りの方が多く、事業所で食べたみかんの皮をテラスに干して、細かくちぎり、お茶パックに入れて湯船に入れておられる。ボディソープは、事業所で用意しておられるが、石鹸を好まれる方は、個々に石鹸箱に入れておられた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠時間・起床時間は決めておらず個々の希望にあわせて対応している。日中も休息したい方は自由に休んでもらっている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の情報はファイルに綴り職員がいつでも確認できるようにしている。また、薬の変更時には副作用などの申し送り、状態観察を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた楽しみや役割が持てるように努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望に合わせた外出は予定を立て、職員の勤務状況により対応できる限り対応している。全体の外出も行事などへの参加を地域の方たちの協力を得ながら対応している。	
			(外部評価) 近所を散歩される時は、庭の花を見せていただいたり、時には、そのお宅の方が花を摘んでくださることもある。9月にはぶどう狩り、11月は紅葉狩りに近くのお寺に、12月は土居町にみかん狩りに行くことを計画されていた。外出時、職員は、利用者の身だしなみに気を付けるようにされている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人で所有している方も数名おられ、飲み物やおやつ等を購入されている。ほとんどの人が家族の希望で所持しておらず、家族が管理をしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話については、本人の希望時には使用できるように配慮している。年賀状や暑中見舞いなどを家族等に郵送している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自宅で使用していたものや馴染みの物を使用できるよう配慮している。共有スペースは季節の花や制作を貼ったりしている。</p> <p>(外部評価) 居間の窓からは、JRの列車が走る様子が見える。待ち時間で停車する列車が間近に見え、乗客と手を振り合ったりすることもあるようだ。居間の壁には、新居浜太鼓祭りのポスターやハッピー等を飾っておられたり、職員と利用者が一緒に作った太鼓台の飾り幕の龍のちぎり絵を貼っておられた。事業所では、午前中は「身体を動かす」レクリエーションやリハビリを行い、午後からは「頭を使う」パズル等を行うことを支援されている。調査訪問時、テーブルに向かい合って座る利用者が、ゴムを引っ張り合ったりリハビリをする様子がみられた。午後からは、マッサージ器に座ってリラックスする利用者の様子も見られた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) それぞれの空間に椅子や畳を設置し、くつろげ自由に雑談を楽しめるような環境づくりに配慮している。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自宅で使っていたものや、馴染みの物を使用できるように配慮している。安心できる空間づくりを心がけている。</p> <p>(外部評価) 各居室には、壁掛けの扇風機が備え付けてあり、使用しない時期にはカバーを掛けている。墓地が見える居室の窓は、窓の一部にシールを貼って配慮をされていた。出窓の棚に造花の花を飾っている方やご家族の写真を飾っている方もある。卓上カレンダーに、鉛筆で日記を書いている方は、ご本人がカッターナイフで鉛筆を削っておられる。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) アセスメントに基づき利用者の力を引出して安全な生活がおくれるようにしていきたい。</p>	